2026年7月 21 日

能勢町まちづくり推進部御中

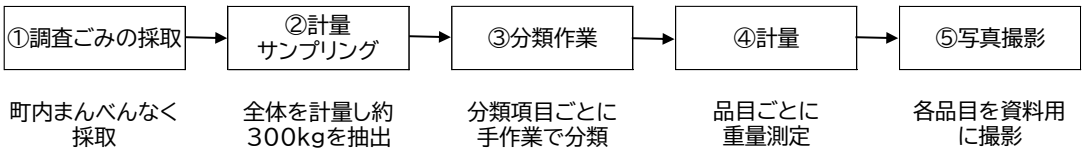
NPO 法人木野環境

令和 8 年度能勢町生ごみ類(可燃)組成調査報告書

1. 調査の目的

家庭系可燃ごみに含まれる生ごみ類の組成を調査してごみ資源化の現状を把握し、減量・リサイクル推進の検討材料とするとともに、その結果を活用して住民周知用の啓発ポスターを作成することを目的とする。

2. 調査の流れ



3. 調査の内容及び実施方法

(1) 調査日時

実施日	採取	分類作業
2026 年 7 月 6 日(月)	8:00～9:00(A 地区)	9:00～16:30
2026 年 7 月 7 日(火)	8:00～9:00(B 地区)	

(2) 調査ごみの採取

調査対象とするごみは、生ごみ類(可燃)である。

調査ごみの採取は、能勢町役場より東側エリアの山内や倉垣などと西側エリアの今西や山田などからまんべんなく行った。採取したごみは調査場所に搬入した。

(3) 調査場所

調査は、能勢町浄化センターの汚泥ポンプ棟にて実施した。

(4) 調査内容

採取したごみから300kg 以上になるようにサンプリングを行った。そのサンプルを以下の項目に分類した。なお、調査重量は、分類項目ごとの組成割合を一定の精度で把握できるよう、統計的な信頼性を考慮して設定した。

No.	大分類	小分類	例
1	生ごみ	食べ残し	
2		手付かず食品※1	
3		調理くず	野菜の皮、へた
4	紙類	新聞紙	分別回収品可能なもの
5		雑誌	
6		牛乳パック	
7		ダンボール	
8		雑がみ	
9		リサイクルできない紙※2	紙コップ、アルミ蒸着
10	プラスチック類	容器包装プラスチック※3	
11		製品プラスチック	おもちゃ、バケツ、ストロー
12		プラスチックの禁忌品	金属と複合したプラスチック、汚れる用途のプラスチック(排水溝ネット等)
13	分別回収品目	ペットボトル	分別回収品可能なもの
14		カン	
15		ビン	
16		古布・古着	
17		有害ごみ	
18	不燃ごみ	小型家電	電池が取り外せる小型家電等
19		その他の金属類	
20		ガラス・陶磁器類	
21	その他の可燃ごみ	草木類	剪定枝、割り箸
22		その他の繊維・布類	雑巾、下着
23		ゴム・皮革類	
24		おむつ	
25		その他の燃えるごみ	マスク、生理用品、たばこ
26		事業系廃棄物※4	
27		排出用袋	

※1 賞味期限切れ等により料理の食材として使用又はそのまま食べられる食品として使用・提供されずに直接廃棄されたもの。(参考:環境省「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開袋調査手順書」)

※2 リサイクル可能な紙の判断は、公益財団法人古紙再生促進センターの HP に基づく。

※3 容器包装プラスチックについて、汚れていても、洗えばリサイクル可能になるものは容器包装プラスチックとして分類した。

※4 ごみの内容物から事業系廃棄物と判断されるごみ袋(5.94kg)が確認された。これはごみ袋ごと「No.26 事業系廃棄物」として重量を計測した。

4. 結果

(1) 調査ごみ重量

採取ごみ重量(104 袋)	559.07kg
調査ごみ重量(分類前)	362.67kg

(2) ごみ袋 1 袋当たりの平均重量

ごみ袋 1 袋当たりの平均重量 (104 袋)	5.38kg

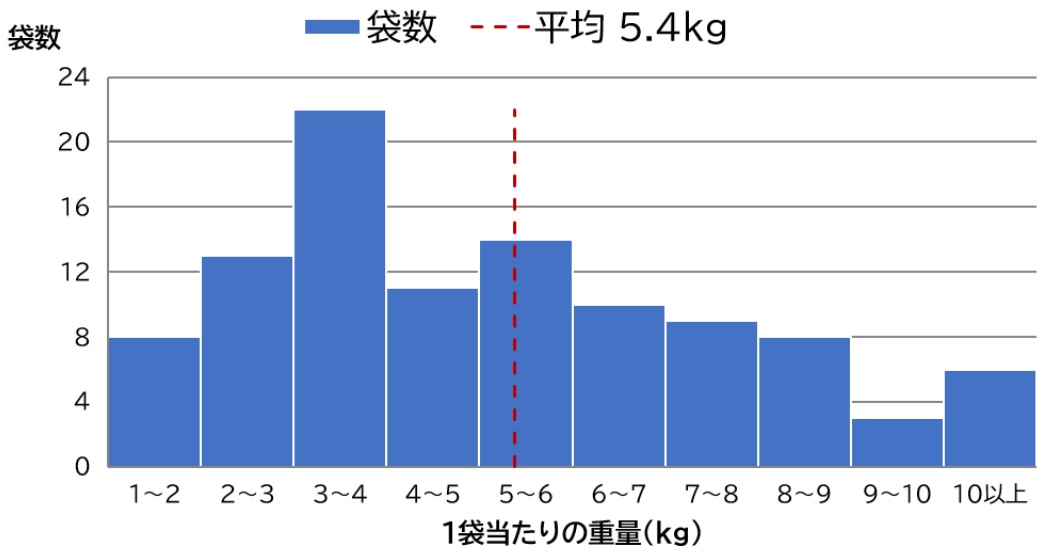


図 ごみ袋 1 袋当たりの重量の分布

(3) 組成結果

本調査の結果、家庭系可燃ごみに占める割合が最も高かったのは生ごみ類(42.1%)であり、次いでその他(26.8%)、紙類(18.4%)、プラスチック類(11.8%)の順であった。組成結果を以下の表及びグラフに示す。(写真資料は別添参照)

表　可燃ごみの組成（重量ベース）

No.	大分類	小分類	重量（kg）	重量比（%）
1	生ごみ	食べ残し	24.36	6.8
2		手付かず食品	27.04	7.6
3		調理くず	98.80	27.7
4	紙類	新聞紙	7.58	2.1
5		雑誌	0.00	0.0
6		牛乳パック	2.98	0.8
7		ダンボール	1.67	0.5
8		雑がみ	19.87	5.6
9		リサイクルできない紙	33.72	9.5
10	プラスチック類	容器包装プラスチック	29.12	8.2
11		製品プラスチック	8.41	2.4
12		プラスチックの禁忌品	3.38	0.9
13	分別回収品目	ペットボトル	1.06	0.3
14		カン	0.13	0.0
15		ビン	0.43	0.1
16		古布・古着	2.08	0.6
17		有害ごみ	0.07	0.0
18	不燃ごみ	小型家電	0.00	0.0
19		その他の金属類	0.62	0.2
20		ガラス・陶磁器類	0.00	0.0
21	その他の可燃ごみ	草木類	7.85	2.2
22		その他の繊維・布類	4.54	1.3
23		ゴム・皮革類	1.19	0.3
24		おむつ	20.43	5.7
25		その他の燃えるごみ	53.40	15.0
26		事業系廃棄物	5.94	1.7
27		排出用袋	2.09	0.6
合計			356.75	100.0

※事業系廃棄物として対象となったのは１袋で、決算報告書等のオフィスごみが排出されていた。調査対象にはしなかったが、他に、農業由来と思われる１袋と、自動車整備業由来と思われる１袋も確認された。

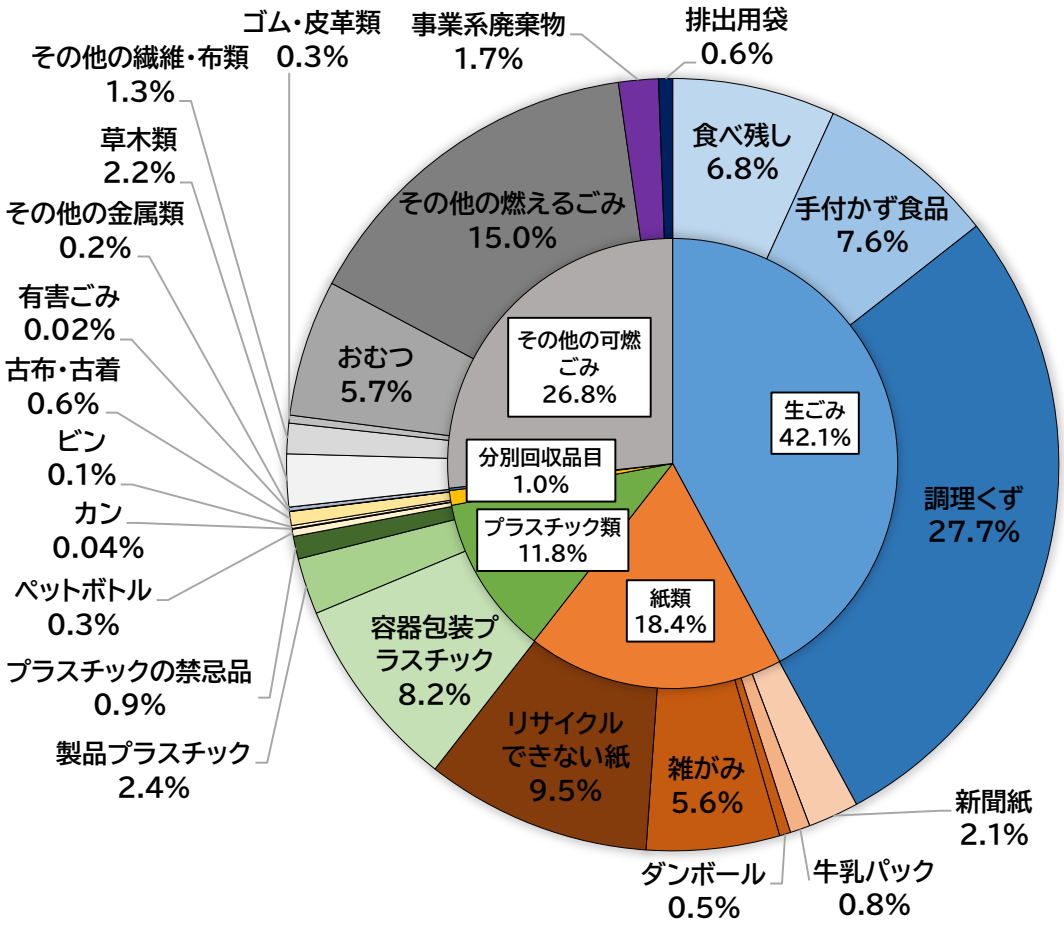


図　可燃ごみの組成（重量ベース）

5.　さらなるごみの減量に向けて

生ごみの減量、及び資源化可能な紙類・プラスチック類の分別徹底に取り組むことで、可燃ごみの一層の減量が期待できる。以下に、組成結果を踏まえ、減量の方向性を示す。

表　更なる減量ポテンシャルのある主な項目

食品ロス	14%
リサイクル可能な紙	9%
容器包装プラスチック	8%

（1）生ごみの減量

生ごみ類は可燃ごみ全体の 42.1%を占め、最も重量比の大きい要素である。内訳をみると、調理くずが 27.7%と最も多く、次いで手付かず食品（7.6%）、食べ残し（6.8%）であった。このうち、まだ食べられたと考えられる手付かず食品と食べ残し

を合わせた「食品ロス」は 14.4%に達しており、食材の使い切りや食べ切り、必要な量だけを購入する等の取組により削減の余地があるほか、家庭での堆肥化等も減量手段として考えられる。

(2) リサイクル可能な紙類の分別

紙類は全体の 18.4%を占めた。このうち雑がみ(5.6%)、新聞紙(2.1%)、牛乳パック(0.8%)、ダンボール(0.5%)は分別回収により資源化が可能な品目であり、これらを合わせると約 9.0%に上る。すなわち、可燃ごみとして排出された紙類のうち約半分が資源化可能なものであった。

(3) 容器包装プラスチックの分別

プラスチック類は全体の 11.8%を占め、そのうち容器包装プラスチックが 8.2%であった。

また、家庭由来生ごみ類(可燃)及び容器包装プラスチックの R7 年度年間排出量をもとに、容器包装プラスチックの分別協力率を推定した結果、43%と推定された。

汚れの付着していない容器包装プラスチックは資源として分別・リサイクルが可能であることから、分別の周知により資源化率の向上が見込まれる。

表 容器包装プラスチックの分別協力率

項目		値
a	家庭由来生ごみ類(可燃)の年間排出量 (R7 年度実績)	1,167.35t
b	生ごみ類(可燃)に占める割合 (組成調査結果より)	8.2%
c	家庭由来生ごみ類(可燃)の年間排出量に占める 容器包装プラスチック量の推定 (a×b)	95.72t
d	容器包装プラスチックの年間排出量 (R7 年度実績)	71.20t
容器包装プラスチックが生ごみ類(可燃)として出された割合の推定 (c÷(c+d))		**57%**
容器包装プラスチックが容器包装プラスチックとして出された分別協力率の推定 (d÷(c+d))		**43%**

(4) ごみ袋制度と 1 袋当たり重量に関する課題

能勢町では、ごみ袋にシールを貼付して排出する方式をとっており、一定枚数までは無料、超過分はシールを購入する必要がある。この仕組みは実質的にシールの枚数

に応じた負担であるため、住民には１袋にできるだけ多く詰めて袋数を抑えようとする誘因が働きやすい。本調査におけるごみ袋 1 袋当たりの平均重量が 5.38kg（n=104）と比較的大きい値となったことも、こうした排出行動を反映している可能性がある。この点について、以下の課題が考えられる。

第一に、袋数を抑えたいという誘因は、資源化可能な品目を可燃ごみから分けて袋の容量を空ける方向にも働くため、分別を促す面がある。一方で、無料枚数の範囲内で負担が生じない世帯では分別への動機も弱まりやすい。

第二に、収集作業の安全性・衛生面への影響である。１袋当たりの重量が大きくなると、収集作業員の身体的負担が増すとともに、破袋も生じやすくなる。また、破袋に伴う中身の散乱や汚水の漏れ、悪臭の発生につながるおそれがある。

写真資料



食べ残し



調理くず



手付かず食品



新聞紙

該当なし

雑誌



牛乳パック



ダンボール



雑がみ



リサイクルできない紙



容器包装プラスチック



製品プラスチック



プラスチックの禁忌品



ペットボトル



カン



ビン



古布・古着



有害ごみ

該当なし

小型家電



その他の金属類

該当なし

ガラス・陶磁器類



草木類



その他の繊維・布類



ゴム・皮革類



おむつ



その他の燃えるごみ



事業系廃棄物



排出用袋



啓発ポスター用の写真

その他参考写真



分類前の写真

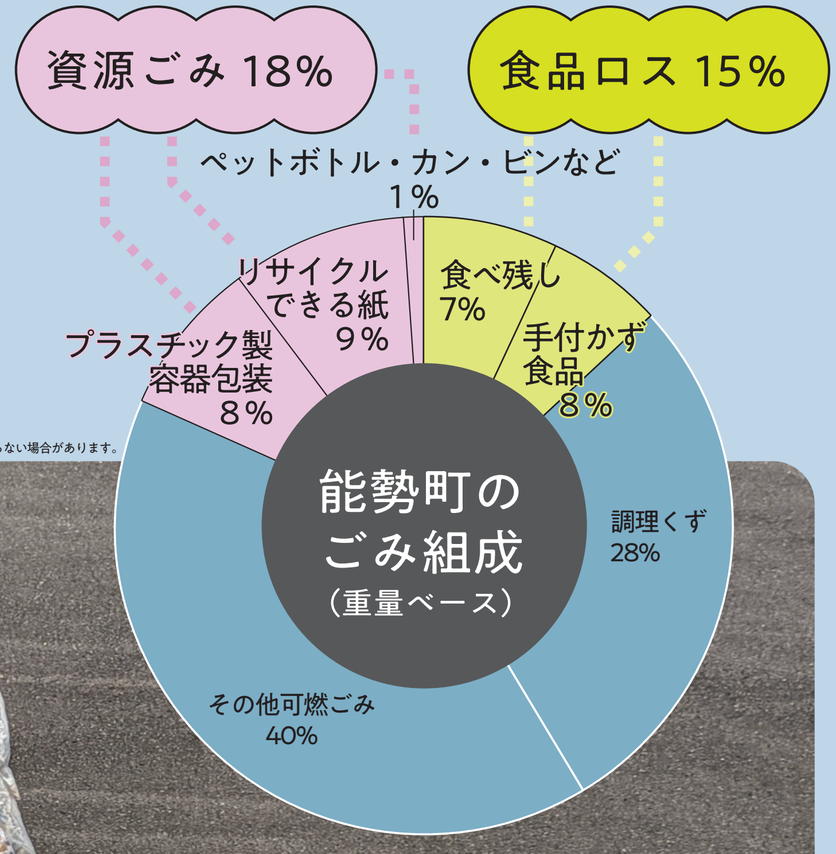


分類作業のようす

能勢町の家庭から出された生ごみ類（可燃）を、再分類しました。

資源ごみ18%、食品ロス15%。

食品ロスをなくし分別を徹底すると、生ごみ類（可燃）はおよそ 3割 減ります。



四捨五入の都合上、合計値が100%にならない場合があります。



作成：能勢町まちづくり推進部みどり環境課　調査：NPO 木野環境